

2000年問題対応の「インダストリーワイド・テスト」

「インダストリーワイド・テスト（IWT）」とは、システムを相互接続している企業が協調して実施する、業界一斉テストである。2000年問題への対応では、米国で1998年7月に主要取引所と大手証券・金融機関29社で模擬システムを組んだ共同実験が成功した。本稿では、内外金融業界の動きを中心に、IWTについて簡単に紹介する。

IWTの意義と国内外の金融業界の動き

IWTの意義としては次の3点があげられる。

- ①参加を義務づけることで、業界全体の2000年対応推進効果が期待できる
 - ②データ交換のキーとなる組織の対応状況を対外接続の観点から検証できる
 - ③参加企業が、自社システムに即して2000年以降に発生しそうな問題を把握できる
- 米国証券業界では、1998年7月のテストに続き、99年第1・第2四半期に最終テストを予定しているが、米国証券業協会の全会員（約500社）が参加の見込みである。
- 一方、日本では、日銀ネット、全銀システ

ム、東証システムが合同で、他の決済システムも参加することで、全金融機関がIWTに参加できるように調整が進んでいる（表1参照）。参加金融機関は、実際の取引処理と同様の形で、内部システムから決済システムまでの一連の処理を一括検証できる（図1参照）。

他の業界の動き

こうしたIWTの動きは、他の業界ではまだ活発ではない。流通業界を例にとれば、その理由は以下のようなものである。

- ①金融機関での日銀のようなリーダーシップを発揮する存在がない

②絶対数が多く調整が困難である

③取扱商品や参入形態が多種多様で、画一的なテストの実施は難しい

④企業規模が不揃いで、同じテーブルに着いての協議が難しい

こうした業界では、

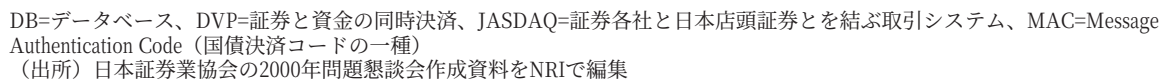
表1 主要決済システムなどの対外接続テスト予定

試験	第1回	第2回	第3回	第4回
期日	98/12/20（日）	99/2/14（日）	99/5/16（日）	99/6/12（土） 99/6/13（日） 99/6/26（土） 99/6/27（日）
参加決済システム	日銀ネット、全銀システム			
接続テスト日付	2000/1/4（火）			

（注1）第1回テストに限っては、東証システムからは東京証券取引所のみが参加（東証会員とのテストは実施されない）

（注2）第4回では、全銀システムは27日のみ参加

（注3）第4回では、試験は2000年1月4日（火）を含む連続する最長4日間を予定



システム間連動テストの必要性を認識した主要企業が、取引先を自主的に糾合してテストを実施することで、結果として業界全体で一定のカバレッジを確保することに期待するほかはないであろう。

(野村総合研究所 大塚久資)